

# 平成 30 年度イカナゴ仔稚魚調査結果概要

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所

平成 31 年 1 月 11～18 日 (1 回目)、および 1 月 25 日～2 月 1 日 (2 回目) に、備讃瀬戸においてイカナゴ仔稚魚調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。本調査は備讃瀬戸および播磨灘西部におけるイカナゴ仔稚魚の分布密度を明らかにし、その情報提供と瀬戸内海東部海域全体における資源管理体制の構築に向けたデータ取得を目的としています。

## 調査方法

当研究所調査船しらふじ丸により、ボンゴネット (目合  $335\mu\text{m}$ 、図 1) を海底-5m まで下ろして 10 秒間水平曳きからの傾斜曳き (船速 2 ノット、巻上げ速度  $0.3\sim 0.5\text{m/秒}$ ) を、岡山県および香川県の定線調査点から各 8 調査点、計 16 調査点 (図 2) にて実施した。

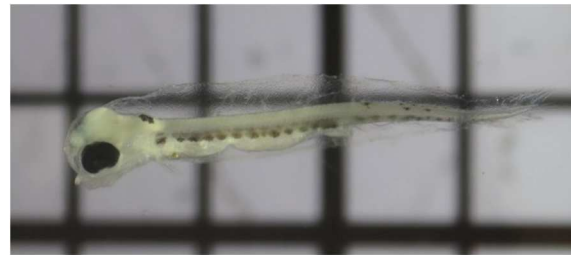
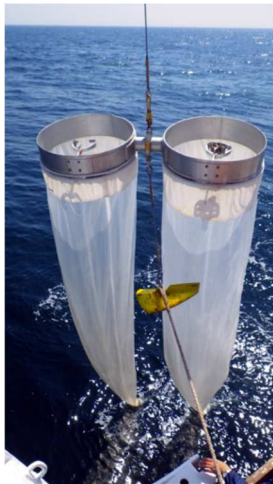


図 1 左：ボンゴネット、右：イカナゴ仔魚 (背景の格子一辺は 1mm)

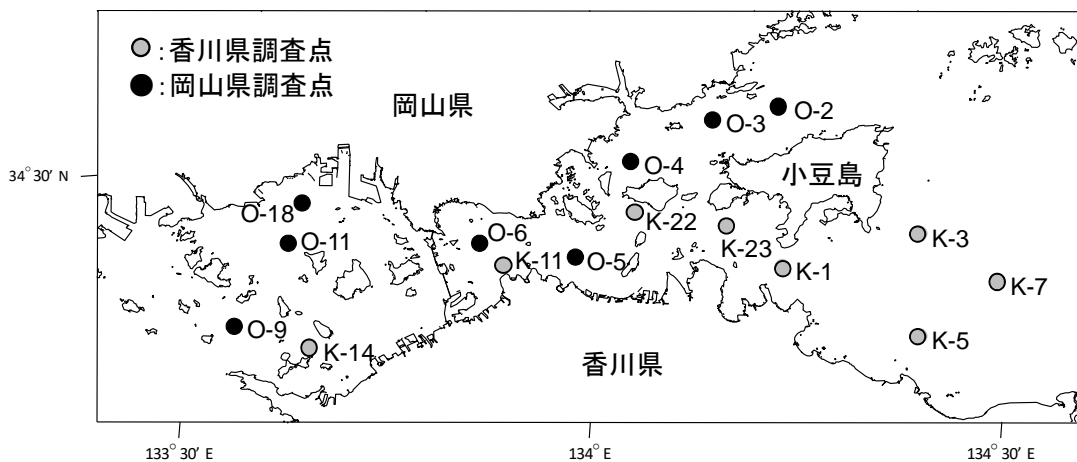


図 2 調査点配置

1. 仔稚魚の出現状況（ボンゴネット左側採集結果、図3）

1) 1次調査（1月11～18日）

備讃瀬戸（O-4,5,6,9,11,18、K-11,14,22,23）で平均117.0尾、播磨灘西部（O-2,3、K-1,3,5,7）で平均2.0尾であった。

2) 2次調査（1月25日～2月1日）

備讃瀬戸で平均27.5尾、播磨灘西部で平均37.5尾であり、仔稚魚の分布の中心は1次調査時よりも東方にみられた。

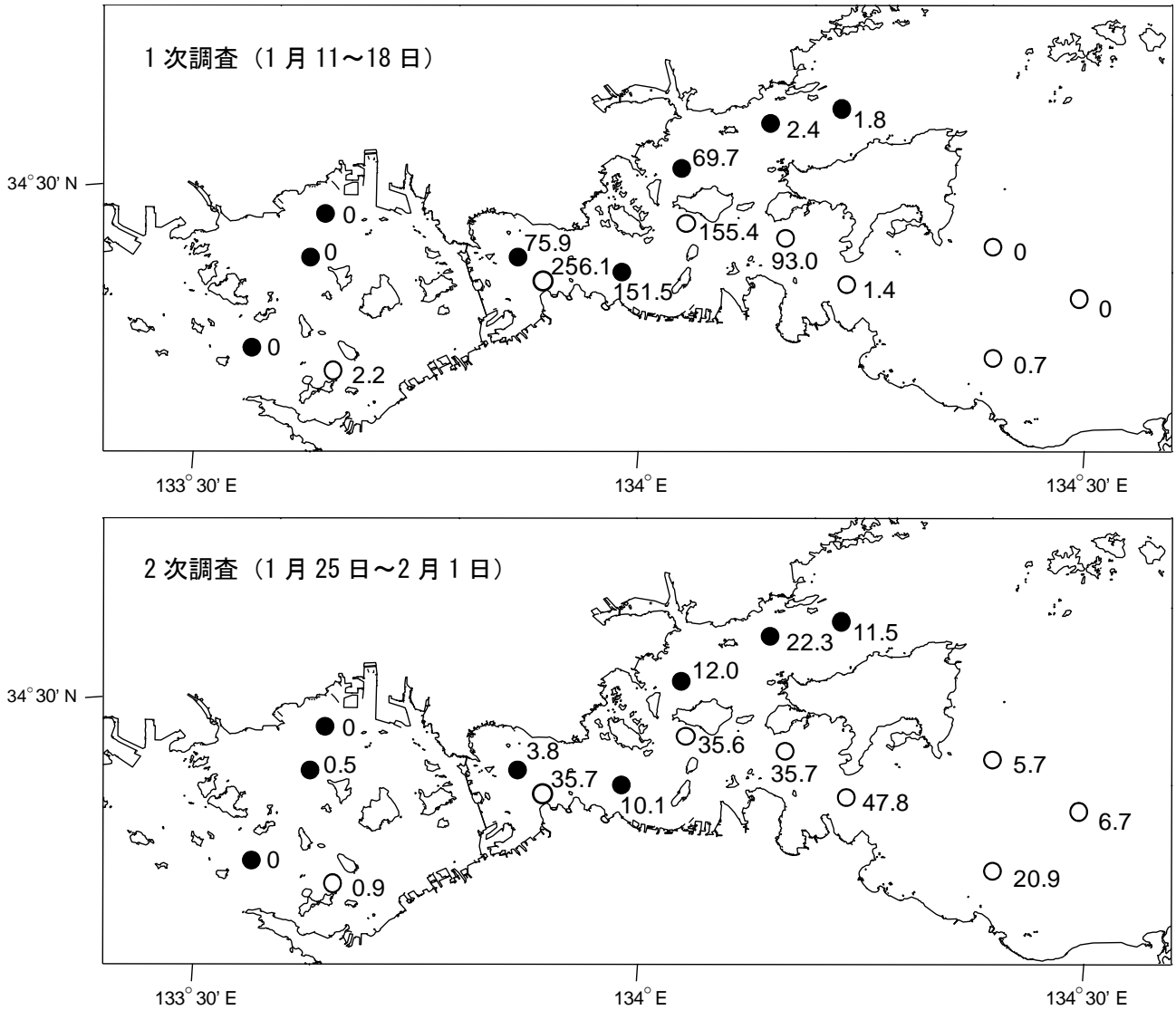


図3 各調査点におけるイカナゴ仔稚魚の採集尾数（ボンゴネット左側：1m<sup>2</sup>水柱あたりに換算）

## 2. イカナゴ仔稚魚のサイズ組成 (図 4)

### 1) 1次調査 (1月11~18日)

備讃瀬戸で平均脊索長 3.69mm、播磨灘西部で平均脊索長 3.98mm であった。採集されたほとんどの個体は油球を保持しており、孵化後数日の個体と推察される。

### 2) 2次調査 (1月25日~2月1日)

備讃瀬戸で平均脊索長 5.87mm、播磨灘西部で平均脊索長 7.14mm となり、1次調査時よりも大型個体が採集された。また、両海域とも 4mm 台にもピークが認められることから、孵化仔魚の加入が継続していると推察された。

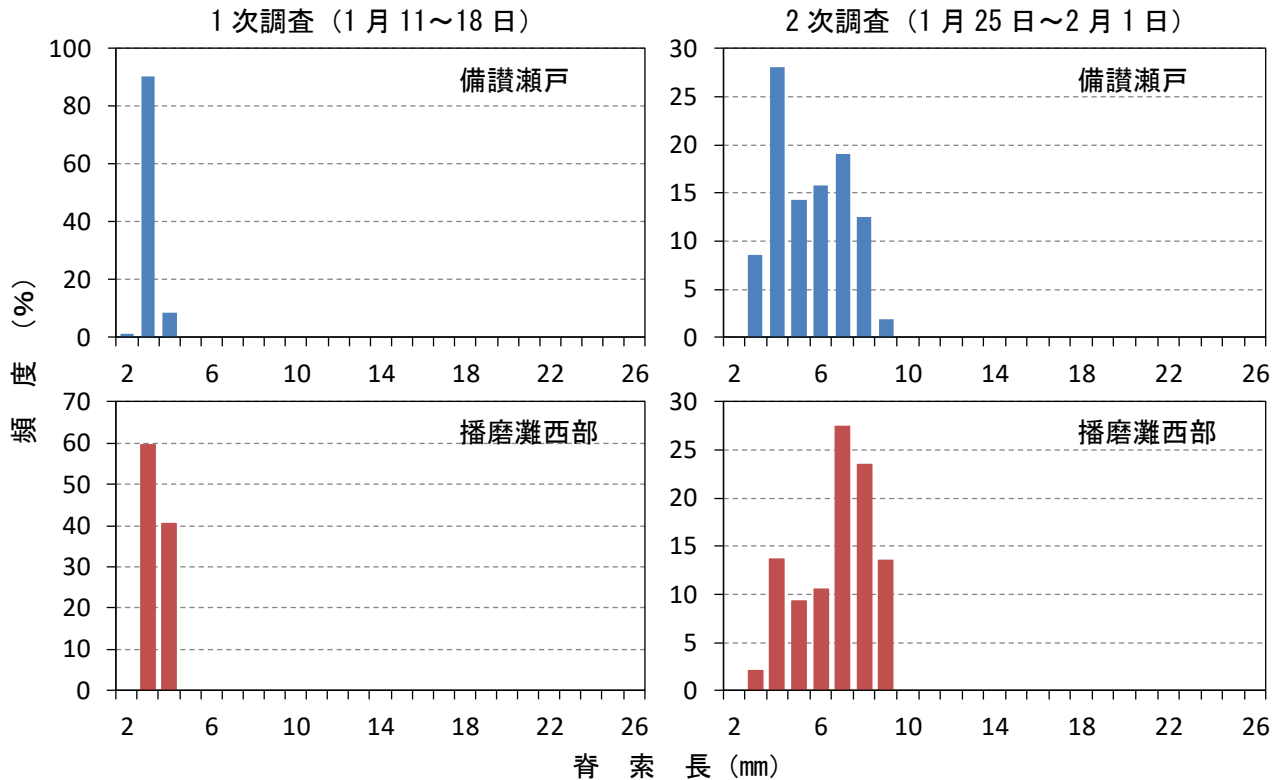


図 4 イカナゴ仔稚魚の脊索長組成

## 3. まとめ

1次調査では備讃瀬戸中央部からやや東方にかけて仔稚魚が出現した。昨年12月に実施した親魚調査 (<http://feis.fra.affrc.go.jp/ikanago/H30shingyo.pdf>) においても同海域で親魚の採集尾数が多かったことから、当該海域が夏眠・産卵場として機能していることが推察された。2次調査においては仔稚魚の分布の中心がより東方となり、仔稚魚が成長しながら東方に分散していることがうかがえた。

本調査は水産庁委託事業「我が国周辺水産資源調査・評価推進事業」の一環で実施されている。

お問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所

(担当：資源生産部 資源管理グループ 高橋)

TEL：0829-55-3529 FAX：0829-54-1216

E-mail：mtaka8@affrc.go.jp